

# とおりにわのへや

アートリノコンペティション  
art reno competition 1st season

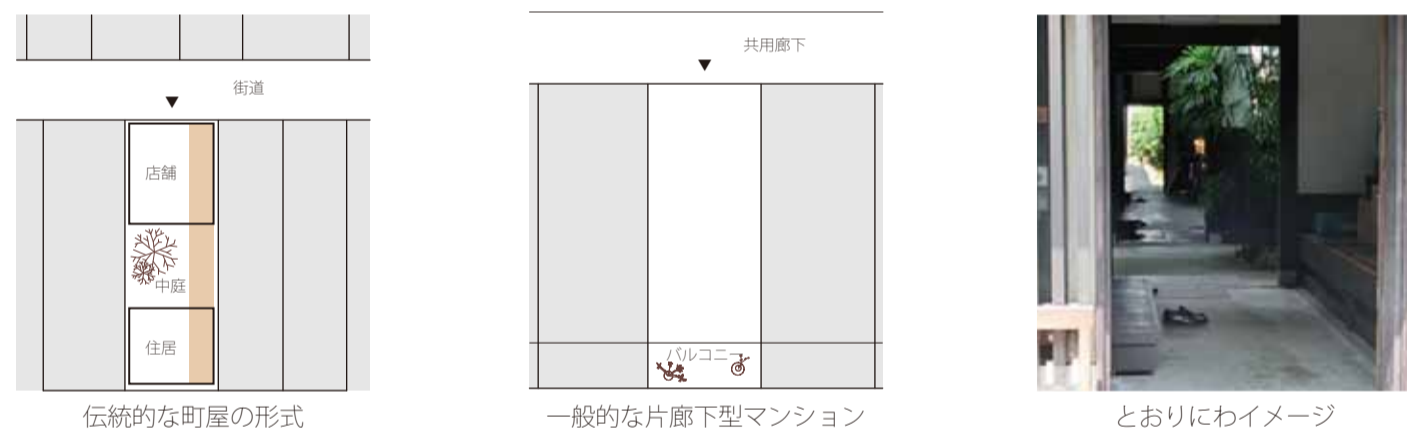
まちづくり賞  
5th prize "Matchidukuri prize"

信州大学 寺内研究室

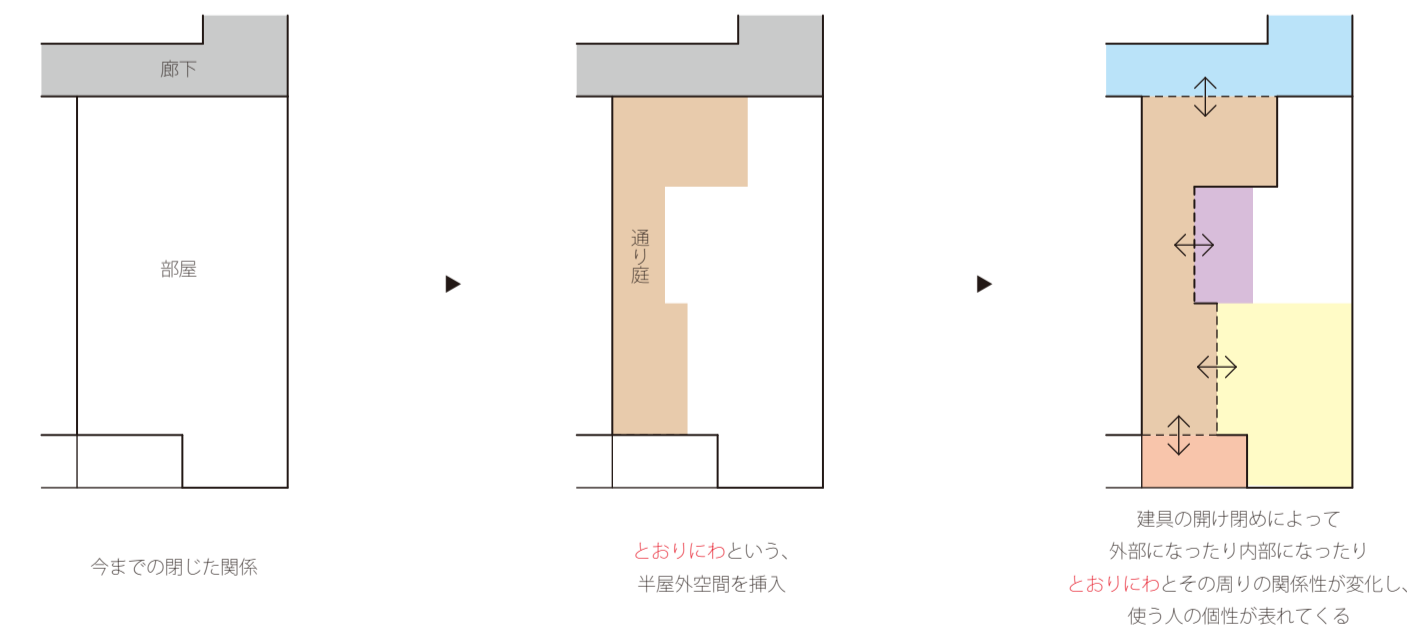
第一期生  
高橋拓生 今城絵美子 京谷奈津希  
野原麻由 南 勇次 山本十雄馬

## art reno competition 1st season

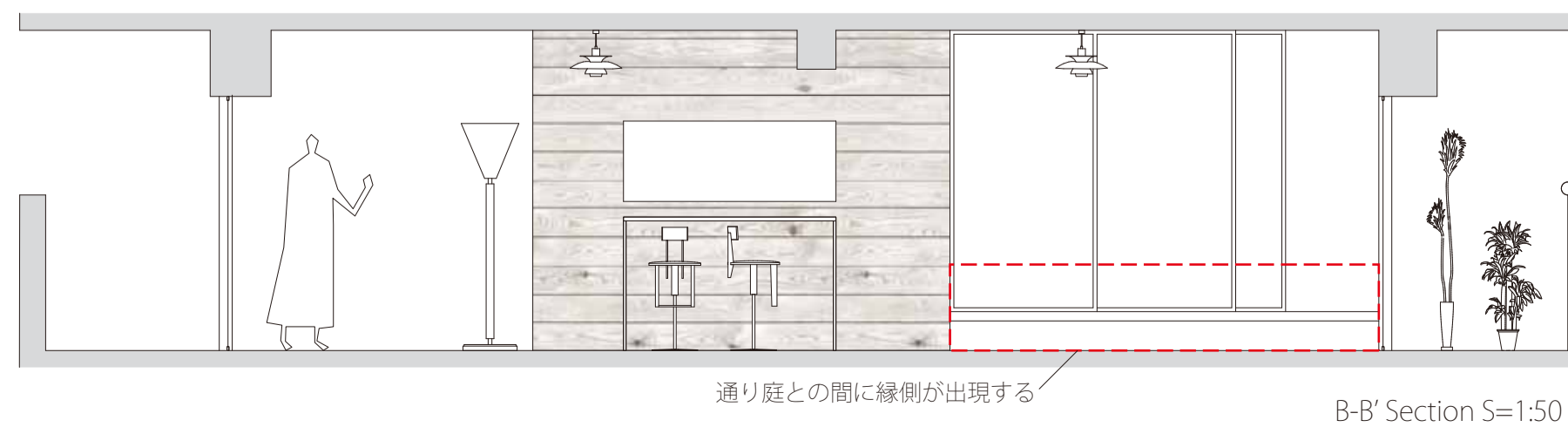
近年長野市では、アパート・マンション・テナントビル等の空き室増加が進み、更には解体される例が多く、空地化に歯止めがかけられない状態が続いています。個性のない画一的なマンションばかりが供給され、古くなると壊された新しい箱が用意されるといったスクラップ&ビルドから、そのまちに暮らす・暮らしたい人の真のニーズに応え、新しい付加価値を生み出すリノベーションがこれからのまちづくりに必要不可欠だと考えます。(アートリノホームページより要約)



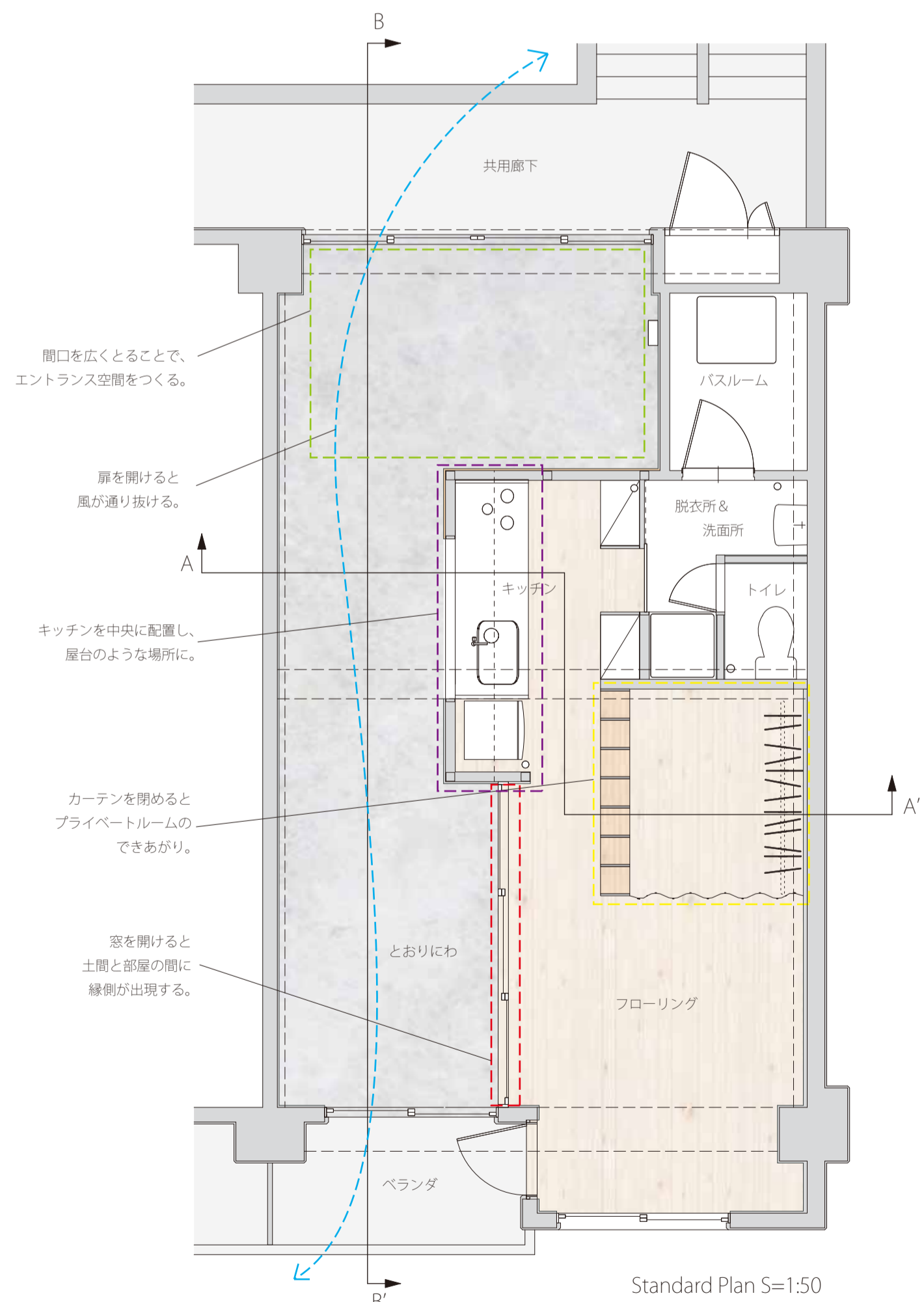
日本の昔ながらの建築に、「町屋」というものがある。町屋は間口がとても狭いのを引換えに、奥行きが長く、街道からずっと伸びる「とおりにわ」を設けることで通りに対して魅力的な空間をつくりだしている。



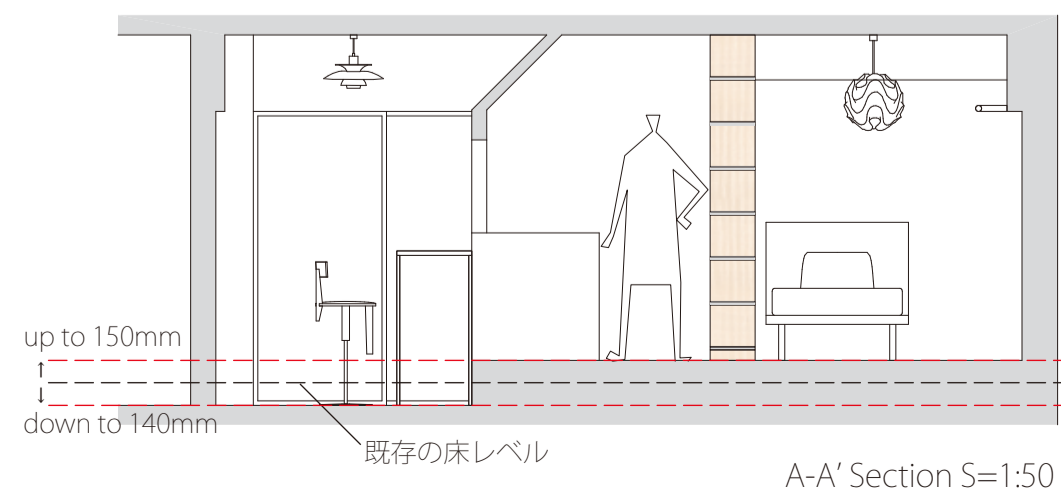
もし、「集合住宅が小さなまちである」とするならば、共用廊下は小さな路地ではないだろうか。その小さな路地を引き込むように「とおりにわ」を設けることで、今までのマンションの閉じた関係とは違った新しい集合住宅の関係が生まれるのではないだろうか。



通り庭との縁側が出現する B-B' Section S=1:50



Standard Plan S=1:50



up to 150mm  
down to 140mm  
既存の床レベル A-A' Section S=1:50

スタンダードプランをもとに、もしこんなへやが光ハイツ全体に広がったらどんな使われ方をするのか考えてみた。



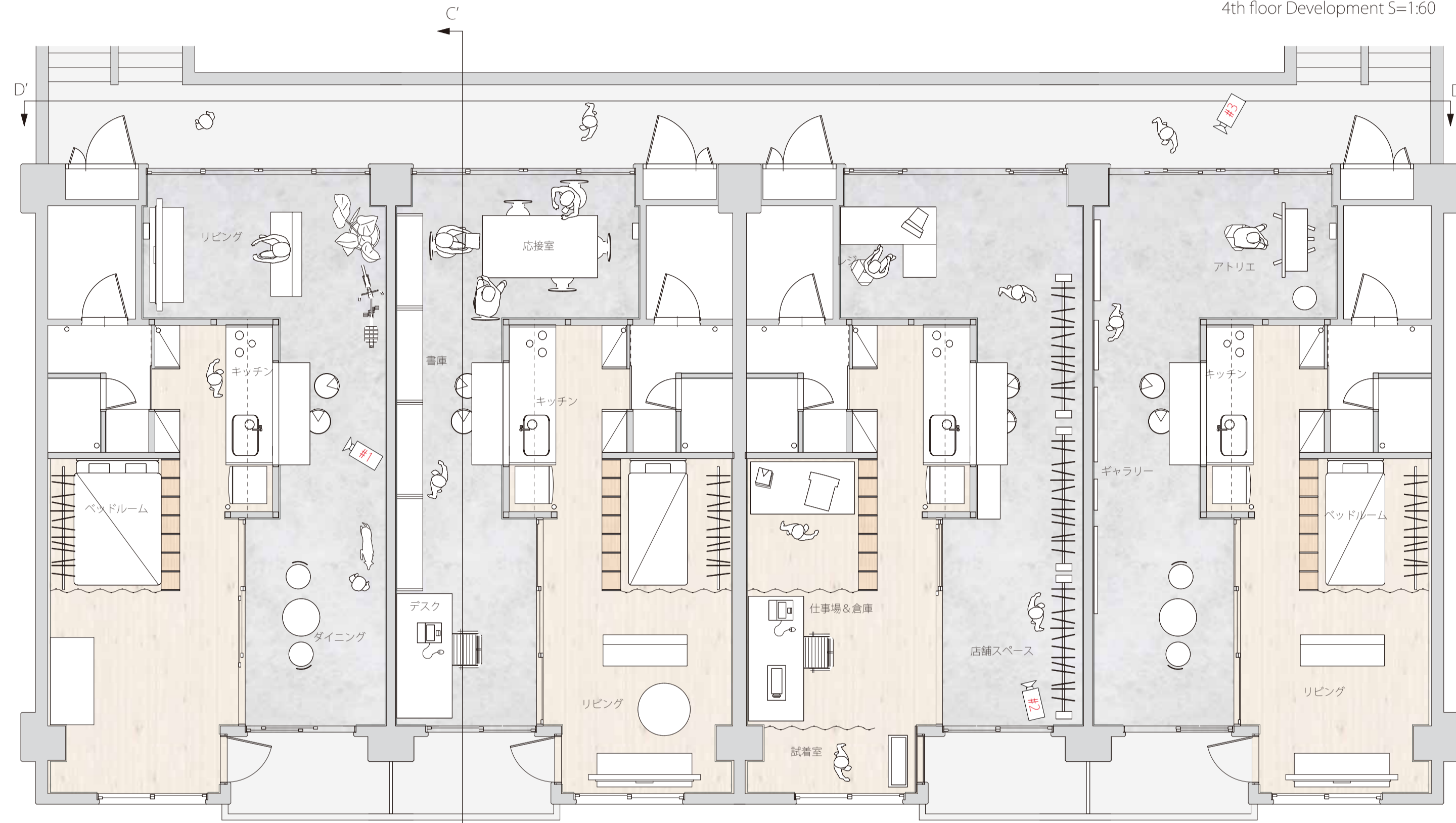
C-C' Section S=1:50



#1 view (Type 1 通り庭から)



4th floor Development S=1:60



4th Floor Plan S=1:60

### Type A: 夫婦二人と一匹

夫婦二人と一匹で土間に囲まれながら住まう。そこでは元気に犬が駆け回り、色とりどりの花壇が置かれ、ピカピカに整備された自車の自転車も置かれる。最近二人目が生まれた友人をパーティーに招待して、子どもがいる未来を夢見たり。

### Type B: SOHO

家の中に事務所を設ける。普段は裸足でくついでいても、仕事の時は靴を履き、集中モードに切り替える。自宅で会議を開き、お客さんカウンターでお茶を出す。居心地がよいせいか会議もつい長い引きがち。

### Type C: 服飾デザイナーの店舗兼仕事場

マンションの一角で洋服とアクセサリーを販売する。奥の方には仕事場があり、その熱心に針を縫う姿にほだされ、お客さんのお財布のひももたまに緩んでしまう。南側の試着室では太陽の光で服の色を確かめることができる。

### Type D: アトリエ兼住居

家の玄関口の玄関とギャラリーをもつ住居。すりガラスの隙間から、多くの力が壁に掛けられているのが見え、それに費やされた時間さえも垣間見える。半分屋外のような土間の空間に風がすっと抜け、アーティストの第六感を刺激する。



#2 view (Type 3 ベランダから)



#3 view (Type 4 共用廊下から)

単に人を住まわせるだけの“箱”ではなく、様々なものを受け入れる“器”としての住まいが人々の生活によって彩られていくことで、ここにしかない魅力がこの建物に刻み、やがてその魅力がまちへと広がっていく。